

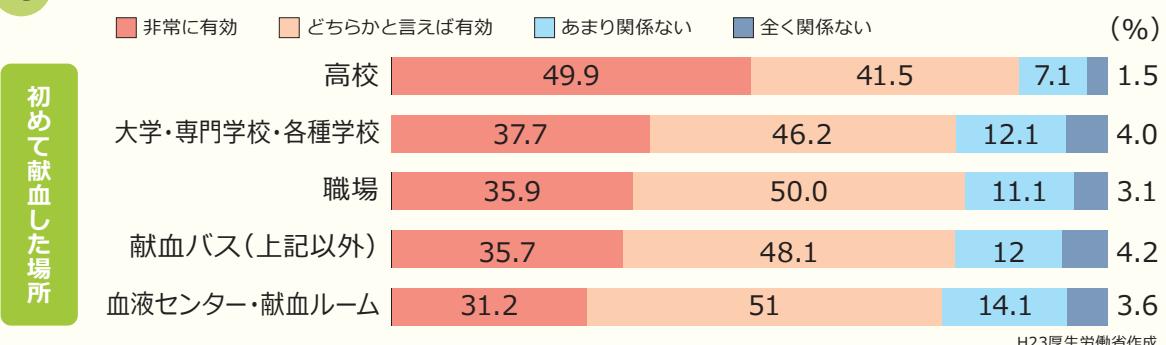
高校生に対する献血推進が重要です

① これからの日本社会の人口動態を考慮すると、献血可能人口は減少すると推定されます。血液製剤は医療に無くてはならないものですので、血液が足りなくなつて患者さんに届けられない、という事態はどうしても避けなければなりません。

そのため、**これからの社会を支える若年層の献血者をいかに増やすか**が喫緊の課題となっています。

② 厚生労働省が献血経験者を対象に実施した調査では、多くの人（特に、初回献血の場所が高校だった人）が「高校での献血がその後の献血への動機付けに有効」と考えていることがわかりました（下図参照）。

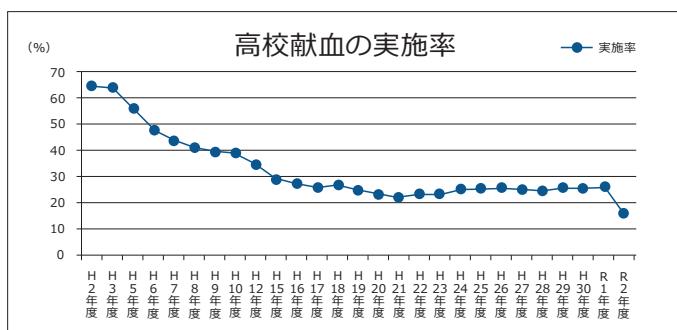
Q. 高校での集団献血が、その後の献血への動機付けとなるか



少しでも献血に触れ合える機会を生徒に提供してください

献血バスが出向いて実施された高校献血は昔、実施率が約6割ととても盛んに行われておりましたが、徐々に減少し、**現在では2割～3割程度**にまで落ち込んでいます。

この高校献血の減少によって、学生たちは献血に触れ合う機会 자체が減ってきてています。



献血については、平成21年7月に改訂された「高等学校学習指導要領解説／保健体育編」に「献血の制度があることについても適宜触れる」ことが追記され、**平成25年度から高等学校の授業で触れられる環境が整いました。**

献血受入を行っている日本赤十字社では、献血のきっかけづくりや、将来にわたって献血にご協力いただくための取組として、学校に出向いての「献血セミナー」（スライド・映像やパンフレットを用いた学習講座）を積極的に実施しております。

詳しくは、最寄りの血液センターへお問い合わせください。